

平成25年度公開講座報告

「やってみてわかる！ 分析方法」

平成25年の公開講座「やってみてわかる！分析方法」（高知県立大学協賛）は、8月24日（土）午前「データの量的な分析 初級編」、午後「データの量的な分析 中級編」、平成25年9月7日（土）午後「データの質的な分析」の3回にわたり開催いたしました。

第1回「データの量的な分析 初級編」は、高知県立大学池キャンパスにて、講師 川上理子先生（高知県立大学看護学部准教授）で開催いたしました。参加者は34名、看護師さんに混じり、学生さん、先生、医師なども参加してくれていました。講座では、実際にパソコンを使用しながら、基本的な統計について学びました。参加した方々からは、「情報をより効果的に処理することがわかった 解りやすかったです」「基礎からこまかく知ることができた 今回の研修に期待した内容通りであった」「エクセルの知らない機能が理解できた」などのご意見をいただきました。

第2回「データの量的な分析 中級編」は、高知県立大学池キャンパスにて、講師 神原咲子先生（高知県立大学准教授）で開催いたしました。参加者は30名。午前中と同様、看護師さんを中心に、学生さん、先生、医師などが参加してくださいました。講座では、実際にパソコンを使用しながら、F検定、t検定、カイ二乗検定などについて学びました。参加した方々からは、「有位確率の意味と解釈がわかりました カイ二乗検定が何回習ってもわからなかったのに少し理解できるようになりました」「新たな領域に足を踏み入れることができました」「難解であるが少しわかったような気がしました」などというメッセージをいただきました。

第3回「データの質的な分析」は、高知県立大学池キャンパスにて、講師 池添志乃先生

（高知県立大学看護学部教授）・畦地博子（高知県立大学看護学部教授）で開催しました。参加者は30名。こちらにも、看護師さんを中心に、学生さん、教員、臨床工学技師さんなどが参加してくださいました。講座では、“もしも私が「患者の語り」が看護師にもたらす変化を明らかにする」という目的で研究をすすめたら…”と仮定し、計画を立てるプロセスを追い、その後インタビューし収集したデータをコード化、サブカテゴリー化していくことを体験しました。参加していただいた方からは、「語りを大切にする、極力データを活かすことがよくわかった」「参加してよかったです 前が見えてきました」「悩んでいたところが明らかになった とても難しいけれど楽しいです」などのご意見をいただきました。

昨年度の公開講座で、同様の内容で講座を実施し、ご参加いただいた方々から、もう少し早い時期での開催を希望するというご意見と共に、「半日くらいかけてやってもらいたい」「シリーズでやって欲しい」など講座の時間の延長を望む声が多く寄せられていました。そこで、今回は、量的な分析の講座を2回シリーズにし、1講座2時間だったものを3時間に延長しました。質的な分析についても2時間だったものを3時間に延長して実施しました。また、参加者がグループワークに集中できるよう、各グループにサポーターを配置する工夫を行いました。しかしながら、もっともっと時間をかけてゆっくりやって欲しいという要望は、今回も同じように聞かれております。

高知女子大学看護学会では、今後も皆様方の要望に応え、より参加者の多様なニーズに応えられる企画を考え、地域の看護学の発展に寄与していきたいと思っております。